

■商品売買に関する問題 ヒント

＜商品売買に関する問題の考え方＞

- ・ 記帳方法および払出単価計算方法を確認する。
- ・ [資料] について適切に仕訳および勘定記入を行う。
- ・ 仕訳および勘定を参考に、純売上高および売上原価を計算する。
- ・ 総平均法を採用した商品有高帳を作成する。

問 1

1. 記帳方法は「販売のつど売上原価勘定に振り替える方法」であり、払出単価計算方法は「先入先出法」である。
2. A 商品と B 商品の 2 種類あるが、それぞれ計算を行った上で、仕訳および勘定記入はまとめて行う。
3. 月次決算にあたり、商品の評価（棚卸減耗損および商品評価損の把握）を行い、勘定の締め切りは英米式決算法にて行う。

問 2

4. 純売上高を解答するため、総売上高から売上値引や売上返品は差し引いて計算する。

問 3

5. 商品有高帳では、総平均法を採用しているため、まず受入欄を 4 月中最後の仕入れまで記入してから、払出単価を計算し、払出欄および残高欄を記入する。



■商品売買に関する問題 基本仕訳など

●商品売買（3 分法）

- ①商品を仕入れ、代金は掛とした。

(借) 仕	入	× × ×	(貸) 買	掛	金	× × ×
-------	---	-------	-------	---	---	-------

②以前仕入れた商品について、返品を行った。

(借)	買	掛	金	×××	(貸)	仕	入	×××
-----	---	---	---	-----	-----	---	---	-----

③商品を売り渡し、代金は掛とした。なお、発送運賃は現金で支払った。

(借)	売	掛	金	×××	(貸)	売	上	×××
	発	送	費	×××		現	金	×××

④以前売り渡した商品について、返品を受けた。

(借)	売	上	×××	(貸)	売	掛	金	×××
-----	---	---	-----	-----	---	---	---	-----

●商品売買（販売のつど売上原価勘定に振り替える方法）

①商品を仕入れ、代金は掛とした。

(借)	商	品	×××	(貸)	買	掛	金	×××
-----	---	---	-----	-----	---	---	---	-----

②以前仕入れた商品について、返品を行った。

(借)	買	掛	金	×××	(貸)	商	品	×××
-----	---	---	---	-----	-----	---	---	-----

③商品を売り渡し、代金は掛とした。なお、発送運賃は現金で支払った。

(借)	売	掛	金	×××	(貸)	売	上	×××
	発	送	費	×××		現	金	×××
	売	上	原	価	×××		商	品
								×××

④以前売り渡した商品について、返品を受けた。

(借)	売	上	×××	(貸)	売	掛	金	×××
	商	品	×××		売	上	原	価
								×××

●商品の評価（販売のつど売上原価勘定に振り替える方法）

①帳簿棚卸高 > 実地棚卸高

(借)	棚	卸	減	耗	損	×××	(貸)	商	品	×××
-----	---	---	---	---	---	-----	-----	---	---	-----

②帳簿価額 > 正味売却価額

(借)	商	品	評	価	損	×××	(貸)	商	品	×××
-----	---	---	---	---	---	-----	-----	---	---	-----

③棚卸減耗損を売上原価に算入する。

(借)	売	上	原	価	×××	(貸)	棚	卸	減	耗	損	×××
-----	---	---	---	---	-----	-----	---	---	---	---	---	-----

④商品評価損を売上原価に算入する。

(借) 売 上 原 価 × × × (貸) 商 品 評 価 損 × × ×

●払出単価の計算方法

①総平均法... $\frac{\text{前月繰越の金額} + \text{当月の受入金額}}{\text{前月繰越の数量} + \text{当月の受入数量}}$

②移動平均法... $\frac{\text{受入直前の金額} + \text{受入金額}}{\text{受入直前の数量} + \text{受入数量}}$

③先入先出法...先に仕入れた商品から払い出すため、払い出した商品の仕入単価である。

勘定科目まとめ

資産	現金
	売掛金
	商品
負債	買掛金
収益	売上
費用	仕入
	売上原価
	棚卸減耗損
	商品評価損
	発送費